

カイゼン活動を積み重ねて、業務を効率化！従業員定着率も向上！

「なんとなくムダが多いと感じているが、どこから手をつけてよいかわからない」といったお悩みはありませんか？ものづくり現場の改善活動は、生産性の向上やコストダウンの実現に効果があり、多くの事業所が取り組んでいます。

中小企業庁がとりまとめた「2018年版中小企業白書」において、サワダ精密株式会社様による取り組みが掲載されました。同社の生産性向上に向けた工夫をご紹介します。

生産性向上の鍵となる業務プロセスの見直し／2018年版中小企業白書より

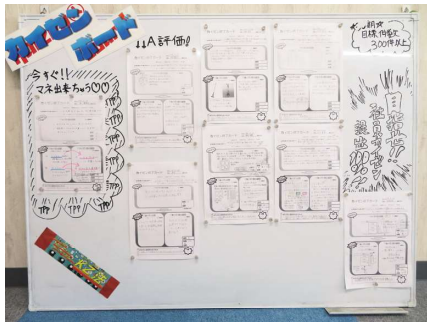
事例2-2-4: サワダ精密株式会社 従業員の声を吸い上げ、日々の改善活動を積み重ねる 仕組みを作り、業務の効率化を図っている企業



(澤田洋明社長)

兵庫県姫路市のサワダ精密株式会社（従業員72名、資本金4,250万円）は、金属加工及び各種自動機、試験装置、検査装置の設計製作等を行う企業である。

現社長である澤田洋明氏が7年前に取締役就任した際、従業員の離職が続いていることを課題と感じていた。従業員に話を聞くと、同社の社風は気に入っているものの、休日の不足と残業の多さに不満を感じている者が多かった。そこで、従業員の勤務時間を減らし、休日の増加と残業削減を実現し従業員の定着を図るため、従業員からの声を吸い上げ、業務改善につなげる取組を本格化させた。そして、各従業員が加工作業の工程や作業環境等について改善できると気付いたことを「カイゼンカード」に記入し、提出するという仕組みを確立した。



同社が活用するカイゼンカード

改善提案の例として、ある機械の開閉を行うハンドルが長く、回すと周囲に設置してある機械カバーに接

触してしまい、その都度付け直して回すという手間が発生していた。その従業員は、ハンドルの長さを短くするだけでハンドル操作が円滑になり、作業時間の削減ができると考え、カイゼンカードを使って提案した。その結果、年間43.8時間の削減が可能となったという。同社は、このような作業の効率化につながる改善提案を地道に積み上げていった。

提出されたカイゼンカードは、従業員のみで構成される「カイゼン委員会」で内容の評価を行い、経営陣はそこで決まった評価に応じて提案者に手当を出している。委員会のメンバーを定期的に入れ替え、全従業員の意識向上につなげることで、改善箇所を探すことが習慣となり、質の高い提案も増えているという。

取組を継続した結果、生産現場での作業時間が短縮されていった。年間休日数も、取組前の90日から現在では105日まで増えた。残業時間は、取組前の約半分に、従業員の定着率向上にもつながっている。

「一つ一つの効果は小さくとも、日々の改善提案活動を続け、積み重ねることで業務効率化が大きく進んでいる。今後も、同様の活動を継続していきたい。」と、澤田社長は語る。

〔2018年版中小企業白書〕(中小企業庁ホームページ <http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/index.html>) を加工して作成

サワダ精密株式会社による取り組み(イメージ)

カイゼン活動の実施

カイゼンカードで報告

カイゼン委員会での評価



- 作業時間の短縮
- 残業時間の削減
- 休日の増加
- 従業員定着率の向上
- 改善活動の習慣化

お気軽にお問合せください。

産業政策担当 TEL 079-223-6555 姫路ものづくり支援センター TEL 079-221-8989